

令和7年度肝炎対策懇話会 会議概要

1 日時

令和8年2月4日（水）午後6時30分から午後7時15分まで

2 場所

県防災庁舎2階共用会議室2-1（プレスルーム）

3 出席者

（委員）

永田賢治委員、蓮池悟委員、赤須郁太郎委員、弘野修一委員、園田千草委員、芋高ゆきな委員、吉ヶ島一成委員

（事務局）

健康増進課がん・疾病対策担当職員

4 会議概要

報告事項

(1) 令和7年度宮崎県肝炎対策事業実績について

（資料1により、事務局から実績報告）

- 委員より、B型C型ともに陽性率は年々減少しており、近年ではB型で0.5%程度、C型で0.1%程度となっている旨発言があった
- 委員より、第8次宮崎県医療計画の数値目標の表が分かりづらい数値となっており、比較しづらいため、グラフの表示を工夫すると進捗がより分かりやすくなる旨発言があった

(2) 協会けんぽの肝炎ウイルス検査の取組について

（資料2により、吉ヶ島委員から報告）

- 委員より、令和6年度の肝炎ウイルス検査の受診者数が増えている要因についての問いがあり、令和5年度から健診全体の自己負担額が低くなっているため、それに伴い受診者も増え、肝炎ウイルス検査を受ける人も増えた可能性がある旨の回答があった
- 吉ヶ島委員より、肝炎ウイルス検査を受診できる方の要件として、過去にC型肝炎ウイルス検査を受けたことがなく、①生活習慣病予防検診の一般健診に併せて申し込みした方、又は②一般健診を受診した結果、GPTの値が36以上であった方と記載しているが、近年はGPTよりALTを使用しており、募集案内もALTとしている旨の発言があった

(3) 宮崎大学医学部附属病院肝炎センターにおける肝炎対策研究事業

（資料3により、永田委員から説明）

その他

- 委員より以下のような発言があった。
 - ・ C型肝炎、肝がんは急激に減ってきており、これまでのいろいろな対策が功を奏してきていると感じる
 - ・ 肝がんの死亡率は全国的に減少傾向にあるが、宮崎県はかつてワースト1位だった時期もあり、依然として注意が必要。治療の進歩により早期発見・早期治療が非常に重要